

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年9月15日

Nature:

週刊ダイジェスト：「新しいワクチン」の効果は？

【松崎雑感】

オミクロン変異株向けのワクチンに期待が高まっているようですが、重症化に関しては従来のワクチンと効果の差がないことをモデル計算で示した論文があります。Natureでそれが紹介されました。抗体増加効果は確かに、オミクロン向けワクチンの方がずっと高いのですが、一般人口の免疫レベルがすでに高くなっているため、上積み効果はほとんどないようです。これは、抗体レベルと感染防止効果が線形ではなくて、抗体レベルが高くなるとプラトーに達するためと考察されています。オミクロン特化ワクチンを待たずに、粛々と従来のワクチンで追加免疫を付けることが大事だという事になります。

Nature:週間ダイジェスト：「新しいワクチン」の効果は？

Lost trees, booster benefits - the week in infographics [published online ahead of print, 2022 Sep 7]. *Nature*. 2022;10.1038/d41586-022-02844-z. doi:10.1038/d41586-022-02844-z

オミクロン変異株ワクチンは、野生ウイルスをベースとして開発された従来の新型コロナウイルスワクチンよりもはるかに効果が高いと期待されていた。

しかし、新たなワクチンは従来のワクチンと同程度の臨床効果を持つに過ぎないことがいくつかの研究で明らかにされた。

これについて最近プレプリントサーバーにまとめた論説が投稿された

(ピアレビュー前論文：D. S. Khoury et al. Preprint at medRxiv <https://doi.org/10.1101/2022.08.25.22279237> (2022).)。

この論説チームは、半数がワクチン免疫あるいは自然感染免疫を持ち、有症状感染リスク低下となっている集団における新ワクチン（オミクロン株向け）あるいは従来ワクチン投与により、どれくらい感染リスクが低下するかをモデル計算した。

その結果、感染リスク低下度は、新ワクチン投与群で90%だったが、従来ワクチンでは86%で、4%の差があることが分かった。

しかし、重症化リスクの差は1%以下だった。（次スライド参照）

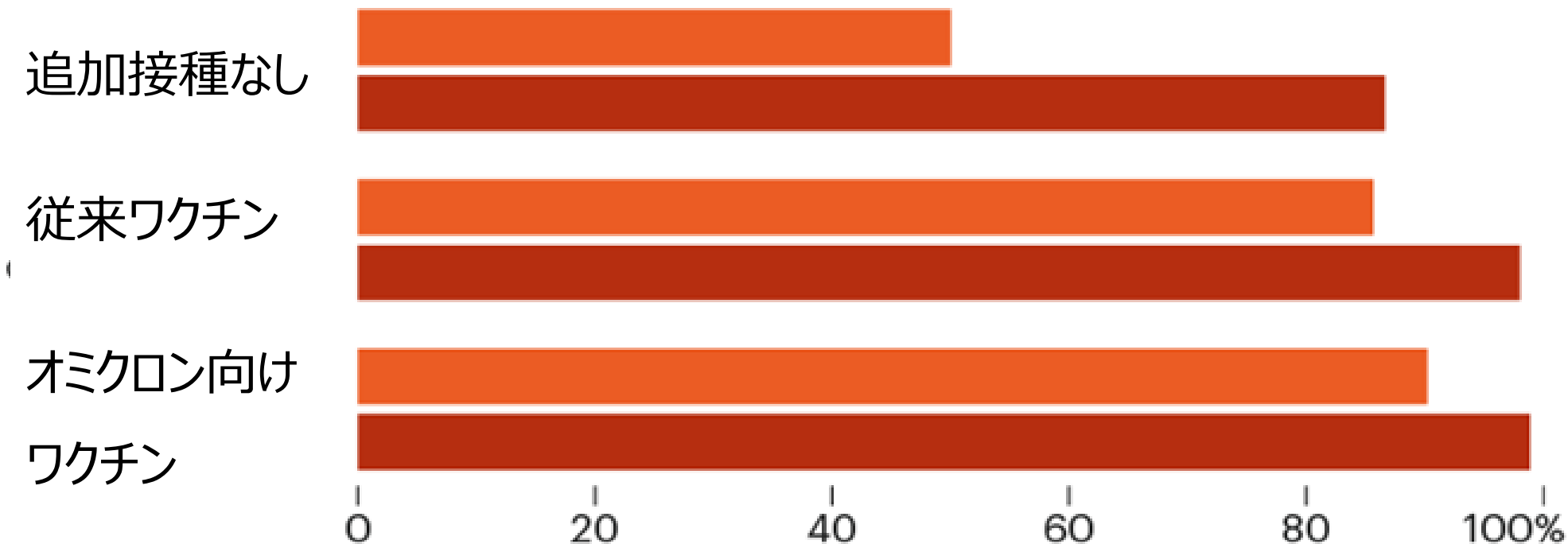
ただし、新たな変異株が出現した場合、新ワクチンの有効率は従来ワクチンをしのぐと思われる（参考：[our News story explains](#)）

オミクロン向けワクチンはどれくらい効くか（追加接種）

オミクロン向けワクチンは従来のワクチンとほぼ同じ効果のようだ

感染リスク低下率*

■ 有症状感染 ■ 重症化



* 人口の50%がワクチン済あるいは感染済の集団でモデル計算

©nature